

## 福岡県西方沖の地震(M7.0)に伴う地殻変動と断層モデル

### Crustal deformation and a fault model associated with the Fukuoka-ken Seiho-oki earthquake(M7.0)

# 西村卓也[1]; 水藤 尚[1]; 村上 亮[1]

# Takuya Nishimura[1]; Hisashi Suito[1]; Makoto Murakami[1]

[1]国土地理院

[1]GSI

2005年3月20日に発生した福岡県西方沖の地震(M7.0)に伴い、震源に近い志賀島にある GEONET 福岡観測点で南南西に約 17cm の変位が観測されたのを最大とし、九州北部の GEONET 観測点で地震による地殻変動が観測された。これらの GPS 観測結果に基づき矩形断層モデルのパラメータを推定すると、志賀島から北北西に延びる長さ 24km、幅 16km の断層面上で 0.7m のすべりが推定された。この推定結果は、余震分布と調和的である。推定断層モデルのモーメントマグニチュードは 6.5 となる。また、上記の福岡観測点では、数日程度の時定数を持つ余効変動も観測されており、おおむね本震断層面での余効すべりで説明できる。

学会のポスターでは、GEONET のデータに加え、福岡県春日市にある GPS 固定点 3 点と、海の中道における GPS 繰り返し観測の結果を加えて本震断層モデルを推定した結果と余効変動の詳細及び 1 秒サンプリング GPS によるキネマティック解析結果について報告する予定である。